

大きな決断

南武は金型用の油圧シリンダーや鋼板巻き取り用のロータリージョイントなど特定分野で高い技術力を有する。リーマン・ショック直後の景気低迷時に、中国への工場進出を決めるなど経営判断も大胆で鋭い。2017年には東京商工会議所が主催する「第15回 勇氣ある経営大賞」で優秀賞を受賞した。その核は、人を大切にしている経営にある。

「中国の現地法人からの配当収入が大きい」。社長の野村伯英は昨今の業績向上をこう話す。南武は日本国内に生産拠点を構えるほか、02年には金型の需要が旺盛なタイに進出、10年に

成長企業チカラの源泉

南武

人を大切にする経営

が大幅に減少する事態に陥っていた。

人材に恵まれる

こうした中で中国進出を決めたのは、中国政府の大型景気対策もさることなが

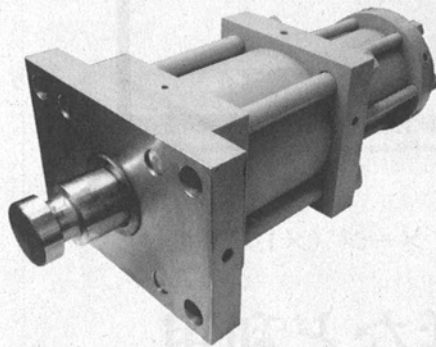


社長 野村 伯英氏

ら、タイ工場の立ち上げノウハウの活用、それにも増して経営幹部級の人材に恵まれていたことが大きかった。野村の親族が上海に留学していた経験があり、また、中国からの留学生が南武の本社に入社して力を発揮。現地の大学在籍時の学友を雇い入れるなど活躍してくれました。

海外でも熟練工育てる

昨今では中国の自動車生産の増加に伴い、金型用の油圧シリンダーの需要も拡大。本社に配当収入をもたらす「孝行息子」に成長した。野村は「どんな国でも大切なのは、人を大切にする経営」と日頃から話す。従業員を大切に処遇しながら



金型用油圧シリンダー

熟練工を育てる。熟練工が育つと不良が減り、その結果、利益が出るようになる。リーマン・ショック後はタイも落ち込んだが、現地従業員を解雇することはなかった。また、中国工場立ち上げでは、従業員採用で性格を重視、技能は後で教えれば良いと割り切った。日本企業のように家庭的な環境を望む人を雇ったため離職率は低く、熟練工が育っている。

(敬称略、南東京支局長・安久井建市)

【企業プロフィール】
▽所在地 横浜市金沢区福浦2の8の16▽社長 野村伯英氏▽創業 1941年(昭16) 8月▽売上高 約17億円(17年9月期)
(火曜日に掲載)